

関西大学3キャンパスで市民参加のイベント実施

●高槻ミュージックキャンパス 社会安全学部「安全フェスティバル」開催



実験装置を用いて液化現象のメカニズムを解説する社会安全学部生

社会安全学部がある高槻ミュージックキャンパスで6月10日、第1回目の「安全フェスティバル」が開催された。「安全に関する知識を“あなた”と共有する」をテーマに、社会安全学部祭典実行委員会が企画・運営を行う学生主体の催しであり、自衛隊や高槻市消防本部など学外の方々も招いてイベントを実施した。防災グッズの解説や液化現象実験、

高槻市の地域物産展、日本各地にある保存食の紹介など、学生のこれまでの活動、その頑張り、魅力が十分に伝わるイベントばかりであった。

ミュージックホールでの講演会「そこまで言わなくて委員会～高槻の防災力を知る!!～」では、河田恵昭学部長による基調講演の後、越山健治准教授、永田尚三准教授、永松伸吾准教授に学生を交えたパネルディスカッションが行われ、活発な議論が展開された。



河田恵昭学部長による基調講演



高槻市消防本部

●高槻キャンパス アイスアリーナを開放「高槻市民デイ」

総合情報学部祭典実行委員会が企画・運営を行う高槻キャンパス祭は、今年で18回目を迎えた。本学学生同士の交流はもちろんのこと、地域の人々とのふれあいの場として発展している。



高槻キャンパス祭

5月27日に高槻キャンパス祭の一環として、「アイスアリーナ高槻市民デイ」を実施。市内の小学3年～6年生約100人とその保護者らが、体育会ア



▲関大アイスアリーナでアイススケートをを楽しむ子どもたち

イススケート部とアイスホッケー部に所属する学生による滑走指導を受けながらアイススケートを楽しんだ。

関西大学アイスアリーナは、本学創立120周年記念事業の一環として建設された。近隣の小・中・高等学校の課外行事での利用などに対しても施設を開放し、社会貢献の一翼を担っている。

●堺キャンパス 「堺キャンパス祭」“Laugh Laugh Love”



第2回堺キャンパス祭は6月24日に開催された。「笑い」も研究対象となっている人間健康学部らしく、今年のテーマ

は「Laugh Laugh Love～なあ、なんで笑顔になってしまうんやろ?～」。

人間健康学部祭典実行委員会の学生が主体となり、ステージ企画や子ども向けサッカー教室などを運営した。世代を超えて地域の方々が参加できる企画が充実していることも、堺キャンパス祭の特色だ。市民によるフリーマーケット、堺キャンパスの各種団体の模擬店、応援団バトン・チアリーダー部のチアステージ、関西大学のOB・OG組織である校友会の物産店や地域の名産品の販売などもあり、2,200人を超える地域住民の方々に堺キャンパス祭を楽しんでいただいた。



子ども向けサッカー教室

社会的信頼システム創生センターが中心となって 連携事業を展開

Research center for Social Trust and Empowerment Process

岩手県大槌町と連携協力協定を締結 IT教育、新規雇用創造による自律的復興支援



▲協定の調印式を行った 楠見晴重学長(右)と碓川豊大槌町長

関西大学と岩手県上閉伊郡大槌町は、連携協力に関する協定を締結することで合意に達し、7月10日に大槌町役場仮庁舎(旧大槌小学校校庭内)で、楠見晴重学長、碓川豊大槌町長らが出席して調印式を行った。

この連携協定は、地域の潜在的資源(現在、常勤の職を持っていない地域住民、あるいは職があればUターンを志望する地域外居住者)を育成し、地域に新産業を創生する、雇用創出プロジェクトを推進することを目的としている。

具体的には、IT関連企業を、外部からの誘致ではなく、地域住民主体で新たに起業し、その企業が自律的に経営されていくところまでサポートすることを計画している。岩手県大槌町に限定して事業展開し、特定の地域での成功事例を構築することで、今後、他地域へも展開できるような基本モデルを構築する。

関西大学では、2011年7月から社会的信頼システム創生センター(STEP)のメンバーが中心となり、「コミュニティ主体の復興をささえる commons の構築—『もやいの家』を通じた地域の再生」と題した展開研究を開始しており、2011年12月までに宮城県気仙沼市、岩手県陸前高田市、釜石市、遠野市、大槌町の各市町の仮設住宅および行政に対して詳細な聞き取り調査を行った。その結果、岩手県大槌町との連携協力が成功モデル構築に最もふさわしいとの結論に達し、このたびの調印の運びとなった。

関西大学リサーチ・アトリエが大提灯を掲示 お披露目のオープニングセレモニーを挙行

社会的信頼システム創生センター(STEP)が設置する関西大学リサーチ・アトリエは6月23日、縦2.2メートル直径1.8メートルの大提灯をお披露目するオープニングセレモニーを挙行了した。

関西大学リサーチ・アトリエは、設置後約2年が経過し、まちの風景に溶け込んでいくが、初めて訪れる人には所在地が分かりにくかった。そのため、天神橋筋2丁目商店街にある参詣道を指示する大提灯と同型・同サイズの大提灯を関西大学リサーチ・アトリエの前に掲げ、指示設備とすることになった。天神橋筋商店街と連携した地域研究・社会貢献拠点のシンボルにもなる。

提灯の設置にあたっては、大阪市北区天満で1858(安政5)年から続く伝統技術継業業者である「提灯舗かわい」の協力のもと、約2カ月かけて制作を進めた。オープニングセレモニーでは、大阪天満宮による祈禱の後、応援団吹奏楽部による学歌の演奏とともに大提灯が吊り上げられ、多くの買い物客の注目を集めた。

関西大学と天神橋筋商店街連合会は、2007年11月、商店街とゆかりの深い大阪天満宮や天満天神繁昌亭など地域の文化拠点とも連携し、地域全体の活性化を目指す協定を締結している。



(左から)楠見晴重学長、土居年樹天神橋筋商店街連合会・会長、上平康晴大阪市北区長(当時)、与謝野有紀教授

